

キャスター必見の情報満載!

投げ釣り研究室



イラスト/もりいくすお

梅雨に入り、サーフからのシロギス釣りが盛んになると、大ギス狙いのキャスターたちも本格的に始動する。これから夏にかけてはイシモチやアナゴなど夜釣りのターゲットも充実するので、仲間とワイワイ、独り静かに……と、それぞれの夏を思い切り楽しんでいただきたい。

CONTENTS

- 130 投げ釣り歳時記
- 133 釣り場ガイド
- 134 投げ釣り釣行記

三浦半島の大ギス釣り
 南房電浦・那古海岸
 静岡県静岡市・大谷海岸

解説 坂井 浩(東京フロンティアサーフ)
 ガイド 熊谷 義之(房総白鰐ハンターズ)
 レポート 佐野 一博

翌年には馬堀海岸に釣り用アパート(友人と共同で家賃は4万円)まで借り、カレイ釣りに没頭した。さらに次年には全日本サーフに入会し、多種多様な投げ釣りを体験す

たことを思い出す。
 私は関東で初めて釣りをしたのは1993年11月初旬。仕事漬けの日々を過ごしていた頃、学生時代に明石で体験していた投げ釣りでも始めようと、ぶらり訪れたのは野比海岸。いきなり20cm級のシロギスが10尾以上釣れ、感動したことを思い出す。

投げ釣り歳時記

電車釣行でくまなく探る 三浦半島の大ギス釣り

解説 / 坂井 浩(東京フロンティアサーフ)

都心から公共交通機関を利用して2時間ほどで到着する三浦半島。そんな身近な釣り場で尺ギスを追いつけている坂井浩さんが、これまでの実績と釣り方を解説。



ることもできた。
 あれから20年の歳月が流れた今も三浦半島は私のホームグラウンドであり、年間20回以上は足を運んでいる。
 東京湾の走水より観音崎浦賀までに至る3km余り続くリアス式海岸は、豊かな自然が残されており、岩礁地に囲まれた小湾にアマモが群生。シロギス、カレイ、アイナメ、クロダイなどの様々な魚の産卵、生息場となっている。
 次に久里浜から南下し、太平洋に面した野比海岸。さらに西の三浦海岸を経て金田海岸まで、8kmに及ぶ砂浜の海岸線が広がる。なんの変哲もない海岸に見えるが、海底は三浦断層からなる岩礁帯と、近年次々と設置されていくテトラ帯により、変化に富んでいる。しかし、10年あまり前からの傾向であるが、温暖化の影響なのか、カレイ、アイナメなどの冬の魚たちの減少を実感している。特に太平洋に面した海岸線ではその傾向が顕著で、40cm級の大型がボツリと釣れるものの、この数年に誕生した30cm未満の魚体

For Surfcasting Freak



過去2年の大ギス記録

【表1】2011年釣果記録

月日	潮回り	場所	時間	(cm)
6.12	若	金田	7:00	26.2
7.24	小	走水	0:00	26.3
〃	〃	〃	2:00	30.8
〃	〃	〃	2:00	28.3
〃	〃	〃	5:00	26.5
8.7	小	走水	0:00	26.5
〃	〃	〃	1:00	26.3
8.15	大	観音崎	20:00	26.5
9.10	中	走水	22:00	26.7
9.11	大	〃	5:00	27.0
9.23	若	走水	1:00	28.3
9.24	中	〃	8:00	29.0
10.8	中	観音崎	22:00	26.2
10.9	大	〃	1:00	28.8
〃	〃	〃	4:00	26.0
10.30	中	野比	9:00	28.2
〃	〃	〃	9:00	26.6
〃	〃	〃	12:00	28.5
〃	〃	〃	12:00	26.2
11.3	小	野比	8:00	26.2
〃	〃	〃	9:00	27.8
11.13	中	野比	11:00	28.0
〃	〃	〃	14:00	26.2
11.23	中	観音崎	3:00	26.3
〃	〃	野比	14:00	26.0

日中は13尾、夜間は12尾の計25尾

【表2】2012年釣果記録

月日	潮回り	場所	時間	(cm)
6.3	大	観音崎	5:00	27.0
6.10	中	観音崎	8:00	26.5
6.23	中	観音崎	22:00	30.2
〃	〃	〃	23:00	26.7
7.8	中	野比	3:00	26.7
〃	〃	〃	9:00	27.2
〃	〃	〃	9:00	26.2
7.14	長	観音崎	18:00	27.2
7.28	長	観音崎	18:00	27.2
〃	〃	走水	23:00	26.8
8.10	小	野比	10:00	27.7
〃	〃	〃	11:00	27.0
〃	〃	〃	12:00	29.4
〃	〃	〃	13:00	28.0
8.15	中	観音崎	22:00	27.8
8.16	大	〃	5:00	26.0
9.1	大	野比	20:00	26.5
9.2	大	〃	8:00	26.0
〃	〃	〃	9:00	26.5
9.8	小	野比	12:00	26.5
9.9	小	走水	20:00	27.2
9.16	大	観音崎	23:00	26.2
11.11	中	野比	2:00	28.0
〃	〃	〃	3:00	27.5

日中は14尾、夜間は10尾の計24尾

※ は日中、 は夜間

※全日本サーフ大物申請による魚拓寸法

がほとんど釣れない(本号のグラビア取材では手のひらサイズのカレイが3尾も釣れ、少しホッとした)。近い将来、東京湾では幻の魚となってしまうのではないかと危惧している。

ところがシロギスに目を向けると、その傾向は見られないように、むしろ数型ともに増加傾向にあるように思える。これらの生態系の変化は、私自身の釣りもカレイからシロギスに変化させてきた。特に「小さな大物」と呼ばれる大ギス釣りに魅せられていった。

三浦半島は駐車場が完備されていて、日中には多くの釣り人が訪れるものの、夜間は

閉鎖されている所が多い。この理由からも、夜ギスをターゲットにする釣りは少なく、マイカーを持たない私は、公共交通機関を使い様々な場所で自由に釣りができるので、それも私の釣りスタイルにマッチしたようである。

「大ギス釣りを愛した一日」
2011年7月23日(土)は、昼に低気圧が通過し、北東の強風が吹く予報だった。週末は休養して映画鑑賞かなと思いつつ、同僚に促されて向かったのは、やはり三浦半島。いつものように京急電車で揺られ、堀之内駅で下車。ポイ

ント横須賀大津店でエサを手して、京急バスで終点の観音崎へ午後9時過ぎに到着。

しかし予想通り海は大荒れで、来たことを後悔しながらも気持ちを取り直し、2カ所釣り歩いた。ところが海藻とゴミの連発でさらに意気消沈。やはり映画で爽やかな感動を味わいたかったと思いつつ、走水方面へ歩くこと20分。釣りを再開した頃には、すでに日付が変わろうとしていた。

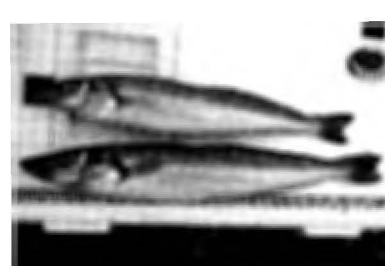
期待もせずに投げた1投目、すぐに大きなアタリが出て、24cm級のダブル。2投目も26cmが竿尻を持ち上げた。

その後、下げ5分を迎え海も静かになった頃、いきなり

竿が飛んだ。上がってきたのは30・8cmの尺ギス。さらに隣の竿には28・3cmの大ギス。興奮冷めやらぬうちに朝マツメを迎えた5時には、4尾目の大ギス、26cm。ほかに22・25cmまで15尾の釣果を記録し、生涯忘れ得ぬ釣行となった。

それまでの釣行は、ベストタイムと言われてきた夕マツメ狙いで、最終バスで帰宅するパターンが多かった。それでも、3投に1尾の割合で釣れた。しかし、この日の体験は、ひとつの壁を越えることができたような気がしている。

その後、多くのポイントの開拓に努めて釣り歩いた結果、その年の11月までに25尾の大



昨年の6月23日に観音崎で釣り上げた30.2cmと26.7cm。日中に釣れる潮から夜に釣れる潮へと変わったのが、午後10時、11時頃にヒットした

ギスを手にする事ができた。技術が大きく向上したわけではなく、特に秘策を見つけないで、根回りの砂地をくまなく釣り歩いた。現在では、30カ所以上のマイポイントを持つ事ができた。

三浦半島東岸① 走水・観音崎周辺

東京湾内に自生するアマモ帯は、大ギスの格好の生息場となり、その周辺で釣れるシロギスのほとんどが20cm級の型揃い。特に6～7月に南風が吹く日は尺ギスのチャンスがある。しかし海水温も20℃まで上昇すると、キュウセン、メゴチ、フグなどの外道が極端に多く、釣りづらくなる。さらに日中はマリンスポーツや磯遊びをする人たちが賑わい、大ギス釣りには適さない。これからの理由から静かになる朝タマヅメを挟んだ夜間の釣りがベストとなる。

過去の実績(前ページ【表1、2】)を見て午後8時～午前4時の静寂が訪れる深夜に食いが立つ傾向がある。特に夜間の満潮から下げ5分までと、ソコリ前後はかなりの大ギスタイム。ただしゴンズイの群れに手を焼くことがあるので注意。ゴンズイは3m以内の浅場には比較的少ないので、湾奥の超浅場や、1色以内の近場を狙うのも手。大ギスは夜間、意外なほど岸近くに寄るものである。

釣り場は北向きのため夏場の南風には強いが、北風は海を荒らし、シロギスを散らすので天気予報は必ずチェックすること。目安としては、北風5m以上の予報では不可となる。

余談だが、真夏の夜には50km遠方の横浜や隅田川で開催される花火大会を眺めながら竿を出すのが、密かな私の楽しみのひとつである。

本号グラビアの観音崎で27.5cmを手にした坂井さん。「今度は三浦西岸に通ってみようかな」と、探求心は尽きない



【釣期と海水温の推移】

三浦半島南岸の三崎方面や西岸のように水温上昇が早い地域では、2～3月でも大ギスの実績はある。さらに水深10m以上の深場に関しては釣期も長くなる。しかしここでは砂浜、岩場から狙える水深5m以内の釣り場に絞って考えてい。

私は4月末頃から始動しているのだが、この頃から水温は15℃を超え、冬の海から春の海へと変わる。単発で大型が出るものの、釣果としては

24cmを頭に5尾がやつとと寂しい頃。しかも水温が上昇する日中のヒットが多く、夜間にはアタリがなくなるのも特徴(2000年4月30日の早朝、金田のボツケ崎で釣れた30cmが最早魚)。

5月中旬以降は、水温が18℃まで上昇すると夜間でも釣れ始めるが、日によるムラが大きく、大型の可能性も低い(過去の実績でも5月に釣れた大ギスは95尾中5尾)。

6月中旬には海水温もコンスタントに20℃を超え、本格

的にシーズンを迎える。過去の実績では、尺ギスの確率が高いのは梅雨入り～お盆までの2カ月間。特に梅雨明け後の真夏日が続く頃、海水温は25℃に達し、22cm超が爆釣となる日がある。

8月中旬のお盆を過ぎると、産卵のため釣果は急激に減少し一服状態となる。大型ほど戻りは早いですが、9月に釣れるシロギスは気の毒なほど痩せ細った姿を見せる。

そして10月の秋風が吹き始める頃、海水温は徐々に下降する。水温が20℃あたりまで下がる10月下旬には、深場に落ちる前に荒食いする落ちギスシーズンの到来となる。1色以内の至近距離で群れをなし、釣れ盛るのが特徴で、11月いっぱいまで続く。「野比の落ち」は、キャストたちの間では有名で、日中に28cmクラスの数釣りも珍しくない。

12月初旬には、水温も15℃近くまで下がり、シロギスは深場に去っていく。私も1週目の日曜日をもってシーズン終了とする(12月10日のタマヅメに野比海岸で釣れた28cm

が最遅魚。

私は釣りの前には必ず海水温を測定する。釣り人が測れる範囲は波打ち際の一部であることは否めないが、おおまかな目安にはなる。外気温の影響を受けやすい浅場は昼夜の海水温の変化が大きく、特に春は3～5℃の差が生じる。ここでは、一日のなかでの最低海水温を基準としている。

【釣り方】

まずは釣り場の海底状況を目で確認するため、日の入りの1時間前にはポイントに入る。次に手持ちの1本竿にエサを付け、細部の藻場のチェックとエサ取りの有無を調べるため広範囲を探り、その日のポイント選択を行う。そしてタマヅメから2本竿で待ち釣りに入り、時合までしっかりと釣る。

数投して移動することはあまりなく、少なくとも2～3時間はエサ取りに負けずに打ち返す。藻場に潜むシロギスを誘い出す感覚は、ヘラブナ釣りに似ているかもしれない。それでもアタリがなければ、

時合の間や潮止まりを利用して移動する。この作業の繰り返しで、多くて5カ所のポイントのチェックを行うのがいつもの釣りである。

【待ち方】

仕掛けをピンポイントに入し、大きくは動かさない。ドラッグはフリーにせず竿の重みを使って適度なテンションを与え、ヒットしたら竿掛けを支点にして竿が大きく前に倒れるようにする。これだけでほとんどのシロギスはフッキングする。竿尻をなるべく軽くするため、バランスウエイトは設置しない。ロッドスタンドを支点として竿が引き込まれる瞬間は大ギス釣りの一番の醍醐味である。さらに竿の倒れるスピードで魚の大きさが判断できる。スズキ、クロダイ、エイなどの大物外道に対応するために、尻手ロープは必需品となる。

今回は三浦の大ギス釣りについてこれまで感じたことをまとめたが、次回は野比&金田海岸の釣り場と、電車釣行に触れるのでお楽しみに。